

浦島太郎

昔、丹後国たんごくにに 浦島うらしまという者 はべりしに、その子に 浦島太郎うらしまたろうと申して、年のよわい 二十四、五のおのこ ありけり。

明け暮れく、海のうろくずを取りて、父母ちちははを養やしないけるが、ある日の つれづれに、つりをせんとしていでにけり。

うらうら、島々、入りえ入りえ、至いたらぬ所もなく、つりをし、貝を拾い、みるめをかりなど しける ところに、「えしまが磯いそ」という所にて、かめを一つ つり上げける。

浦島太郎うらしまたろう、この かめに 言うよう、

「なんじ、生しやうあるものの中にも、つるは千年、かめは万年とて、命ひ久しきものなり。たちまち、ここに 命をたたんこと、いたわしければ、助くるなり。常つねには、この恩おんを思いだすべし。」
とて、このかめを もとの海に 返しける。